

【施策評価(平成29年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	11	歴史・文化の継承
施策主管部等	教育委員会	
評価責任者	豊岡勝敏 教育部長	
評価シート作成者	大倉慎澄 教育次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
地域に受け継がれている歴史や文化に誇りを持ち、次世代に伝えていくため、文化財の保護に取り組むとともに、市民が歴史や文化に理解を深め、身近に感じることができるように、文化財の幅広い活用を図る。	地域に受け継がれている歴史や文化に親しむこと、そして、それを次世代に継承することは大切なことであるが、市民の関心は決して高くないと捉えており、更に創意工夫、改善の可能性はある。 また、博物館等施設については、市民が関心を持つような魅力的な施設であり続けるよう計画的に改修・整備を行っていく必要がある。 今後も、市民が地域の歴史や文化に興味を持ち、施設の来館者の増加にもつながるよう、ソフト・ハード両面から、施策展開に努めたい。

施策の概要

主な取組内容
文化財の保護と活用については、青少年郷土芸能フェスティバルやリーダー育成研修会の開催を支援し、無形民俗芸能保持団体の一部では後継者が増加した。また、志波城古代公園では、イベントや施設案内・周知の充実を図り、来園者が増加したほか、埋蔵文化財については、適切な調査・記録と保存・展示を行った。 博物館等施設の整備・充実については、各館とも事業の企画や案内周知に積極的に取り組み、9施設中、4施設で入館者数が前年度に比べ10%以上の増加となった。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民	地域に受け継がれている歴史や文化への関心が深まる。
文化財	地域に受け継がれている歴史や文化が保護、継承される。
-	-
-	-

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価			
指標①	文化財数(国・県・市指定)	単 位 件	目指す方向 ↗	○ 順調に進捗している(H31目標値を達成する見込み) 指定の文化財数は、前年度に比べ1件増加した。既に指定となっている文化財等は存続できた。			
当初値(H25)	270	H31目標値	276				
※H28実績値に誤りがあったため修正している				△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難) 盛岡の歴史・文化財に興味関心を持ち積極的に活動する市民と、歴史・文化財に触れる機会の少ない市民の二極化が進んでいるものと考えられる。			

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に推移している(H31目標値を達成している), ○ 順調に推移している(H31目標値を達成する見込み), △ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
11-1 文化財の保護と活用	<ul style="list-style-type: none"> 青少年郷土芸能フェスティバルやリーダー育成研修会の開催の支援により、一部の無形民俗芸能保持団体では後継者が増加したが、後継者不足に直面している団体も多いことから、団体の特性に応じた対策が必要となっている。 国、県、市指定の文化財が適切に維持された。 保存建造物は、観覧する機会を設けるとともに、維持保全を図り存続することができたが、計画的な改修が必要となっている。 有形の文化財等は、周辺環境も含め、適切な保存・修繕が難しくなっているものがある。 埋蔵文化財は、出土資料が増え続け、従来の施設には収まらなくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 無形民俗芸能保持団体の後継者不足については、盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会と連携しながら支援策を講ずる。 保存建造物は、改修事業に係る財源の確保のため、国の補助制度の活用を図るほか、所有者に対し改修補助制度の周知を図る。 有形文化財等の保存・修繕のため、必要な場合は、町内会等地元住民への協力要請を行うほか、「歴史的風致維持向上計画」を策定し、国による計画の認定制度、補助制度も活用しながら、文化財等の保護と活用に取り組む。 埋蔵文化財の出土資料は、活用頻度によりランク分けを行い保管場所の再配置等の対策を講ずる。
11-2 博物館等施設の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市先人記念館、遺跡の学び館、盛岡てがみ館、都南歴史民俗資料館の4施設で、入館者が前年度比10%以上の増加となったが、9施設全体では6%の減少となった。 各施設とも施設・設備の老朽化が進み、修繕が必要な箇所が増え、対応が追いつかない状況となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種企画展をはじめとする魅力的なイベントの開催のほか、各施設の情報案内・広報の強化を図るとともに、施設外へ出向く「出前講座」の充実に取り組む。 施設や設備の修繕については、優先順位を検討し、計画的に対応していく。

【施策評価(平成29年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	12	芸術文化の振興
施策主管部等	市民部	
評価責任者	伊瀬谷渉 市民部長	
評価シート作成者	村上淳 市民部次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
誰もが芸術文化に親しみ、豊かな生活が送れるように、優れた芸術を鑑賞する機会を提供するとともに、市民の自主的、創造的な芸術文化活動を支援する。	(公財)盛岡市文化振興事業団は、コンサートや演劇、美術展などの芸術鑑賞事業など芸術文化に親しむ機会を提供し、芸術文化活動の充実に努めている。 しかし、市民の価値観が多様化していることから、市民ニーズの把握に努めるとともに、それぞれの文化会館の特色を生かしながら、魅力ある事業展開に取り組む必要がある。 文化施設利用者へのサービスの向上のため、舞台設備更新調査を踏まえ、計画的に設備の更新、修繕を実施する必要がある。 また、市民の自主的・創造的な芸術文化活動が活発に行われるように、なお一層、文化施設の利用を図る必要がある。

施策の概要

主な取組内容
<ul style="list-style-type: none"> 本市の芸術文化の振興を図るため、現状や課題、今後の基本的な方向性を示す「盛岡市芸術文化推進指針」を策定した。 盛岡芸術協会が主催する盛岡芸術祭を共催し、市民のすぐれた芸術文化活動の成果を発表する機会と広く市民に鑑賞の機会を提供するため支援した。 建設から15年以上経過し設備が老朽化している文化会館の計画的な施設修繕や更新のため、舞台設備更新調査を実施した。29年度は盛岡劇場と都南文化会館を実施した。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民、芸術・文化に関わる人・団体	芸術・文化活動について、鑑賞・参加できる機会が増える。
芸術文化施設	芸術・文化活動の場(施設)として、より活用が促される。
-	-
-	-

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価		実績値の推移				進捗の評価													
指標①	単 位	目指す方向				指標②	単 位	目指す方向															
まちづくり評価アンケート調査「この1年間に何らかの芸術文化活動に参加した」と答えた市民の割合	%	↗			○ 順調に進捗している(H31目標値を達成する見込み)																		
当初値(H25) 41.6	H31目標値 45.0	H36目標値 50.0				当初値(H25)	H31目標値	H36目標値															
<table border="1"> <caption>実績値の推移 (指標①)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値(H25)</td> <td>41.6</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>40.3</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>40.9</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>40.6</td> </tr> <tr> <td>H31目標値</td> <td>45.0</td> </tr> <tr> <td>H36目標値</td> <td>50.0</td> </tr> </tbody> </table>				年度	値	当初値(H25)	41.6	H27	40.3	H28	40.9	H29	40.6	H31目標値	45.0	H36目標値	50.0	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり評価アンケート調査「この1年間に何らかの芸術文化活動に参加した」と答えた市民の割合はほぼ横ばいである。 市民の価値観が多様化していることから、コンサートや演劇、美術展などの芸術鑑賞事業や各種講座など、芸術文化に親しむ機会を提供しており、盛岡市文化振興事業団の主催事業の鑑賞者数は増加した。 					
年度	値																						
当初値(H25)	41.6																						
H27	40.3																						
H28	40.9																						
H29	40.6																						
H31目標値	45.0																						
H36目標値	50.0																						

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に推移している(H31目標値を達成している), ○ 順調に推移している(H31目標値を達成する見込み), △ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
12-1 芸術・文化活動の充実	・(公財)盛岡市文化振興事業団が主催する鑑賞事業数は昨年並みだったが、広く県内外から多数の来場者がある展示会を開催することができた。一方、盛岡芸術祭の参加者数が減少しており、市民が芸術文化活動に参加する機会や鑑賞する機会を提供する必要がある。 ・芸術文化活動の振興を図るため、自主的な活動を促進する機会として、盛岡芸術祭を共催しているが、盛岡芸術協会の構成団体が減少及び高齢化しており、参加・出展者数が減少傾向にある。	芸術文化団体等の自主的な芸術活動への支援策を検討する。
12-2 文化施設の整備と活用	舞台修繕調査を行い、修繕箇所を把握した。一方、多額の費用がかかることが判明したが、財源がない。	舞台設備更新調査結果に基づき、緊急度が高い修繕について先行して着手しながら、同時に修繕計画を策定する。

【施策評価(平成29年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	13	スポーツの推進
施策主管部等	市民部	
評価責任者	伊瀬谷渉 市民部長	
評価シート作成者	村上淳 市民部次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
誰もがスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができるように、スポーツをする環境やスポーツを支える環境づくりを進めるとともに、スポーツを通じたまちの魅力の創出などに取り組む。	<p>施策の成果指標である「週1回以上スポーツをしている市民の割合」は、目標値を下回っているが、29年度から増加に転じていることから、引き続き利用環境の向上を図るため、(公財)盛岡市体育協会や各種競技団体、総合型地域スポーツクラブ及びスポーツ推進委員等と連携を図りながらスポーツを行う機会の提供を進めていく必要がある。</p> <p>加えて、希望郷いわて国体・いわて大会の遺産(レガシー)を継承しながらTOKYO2020オリンピック・パラリンピックに向けカナダを相手国とするホストタウン事業を推進する必要がある、これらを通じ、継続してスポーツの振興等に取り組む。</p>

施策の概要

主な取組内容
<ul style="list-style-type: none"> すべての市民がスポーツに参画する機会の確保を目指し、スポーツ推進委員や(公財)盛岡市体育協会を中心とした各種競技団体、総合型地域スポーツクラブ等と連携しながら各種事業に取り組んでおり、事業参加者数の増加につながった。 市民が継続してスポーツを楽しめるようアイスアリーナを総合アリーナへ通年型施設として改修整備するなど利用環境の向上を図ることにより施設利用者の増加につながった。 スポーツツーリズムを推進するため、29年度に課内室としてスポーツツーリズム推進室を設置した。また、平成29年3月に広域8市町で立ち上げた盛岡広域スポーツコミッション事業としてエイトオリンピックプロジェクトやHPの立ち上げによる魅力発信等に取り組んでいる。希望郷いわて国体・希望郷いわて大会のレガシーを承継し、東京2020オリンピック・パラリンピックにおけるカナダ国とのホストタウン事業に取り組む、水球カナダとの事前キャンプの覚書を締結するとともに、ラグビーカナダの視察やスポーツクライミングの事前キャンプの受入を行った。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民、生涯スポーツに関わる団体、指導者	参加する機会が提供され、多くの市民が参加できる。
スポーツレクリエーション施設	スポーツレクリエーションの場(施設)として、より活用が図られる。
スポーツ団体等	団体の役割を明確にし、市民のスポーツ活動が活発に展開される環境を作る。
市民、プロスポーツ団体等	市民のスポーツへの関心を高める。

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価			
指標①	まちづくり評価アンケート調査「週1回以上スポーツをしている」と答えた市民の割合	単 位	目指す方向	<p>△ 遅れが生じている (H31目標値の達成が困難)</p> <p>・「週1回以上スポーツをしている」と答えた市民の割合は、27年度・28年度と減少傾向にあったが、29年度は増加に転じている。この要因としては、28年度に行われた希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の開催により、より多くの市民が「する」「見る」「支える」といったいろいろな形でスポーツに関わったほか、国体開催により整備・新設した施設や通年型施設の整備により利用環境の向上が図られたことなどにより市民割合が上昇したものであると考えられる。</p> <p>・全体的には31年度目標値と実績値の乖離が大きいことから、アスリート型スポーツだけでなく、健康寿命の延伸等も含む地道な取組が必要である。</p>			
当初値(H25)	31.1	H31目標値	56.0			H36目標値	71.0
指標②		単 位	目指す方向				
当初値(H25)		H31目標値		H36目標値			

進捗の評価(3段階):◎非常に順調に推移している(H31目標値を達成している)、○順調に推移している(H31目標値を達成する見込み)、△遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
13-1 ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進	<ul style="list-style-type: none"> 市の事業数が28年度は希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の開催により増加した。 29年度は国体開催前の事業数に戻ったが、中間年である31年度年目標を上回っている。 事業参加者数が27年度・28年度と減少傾向にあったが、29年度は増加に転じている。 事業参加者は子供や高齢者の参加者は多いが、働く世代の参加者が少ない傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会によりもたらされた有形・無形の様々な遺産(レガシー)を発展させ、確実に未来の世代に引き継いでいく取組が必要であることから、市や(公財)盛岡市体育協会を中心とした各種競技団体、総合型地域スポーツクラブ等が実施している各種スポーツ大会やスポーツ教室の周知を促進していく。 各種スポーツ団体と協議を行いながら、スポーツに親しむ機会が少ない人が気軽にスポーツに取り組めるよう努める。
13-2 スポーツ施設の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ施設利用者が増加している。 利用者が快適に利用できるよう、競技用具等の定期更新や施設修繕を計画的に行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用者の増加につながる自主事業の拡大について指定管理者へ要請する。 公共施設保有最適化・長寿命化計画の着実な推進を図る。 新たな施設整備について、関係団体(岩手県)と連携しながら(整備計画に基づき)着実に推進する。
13-3 スポーツ団体等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> (公財)盛岡市体育協会をはじめ各競技団体や総合型地域スポーツクラブ等の事業数が増加している。 29年度、総合型地域スポーツクラブが1団体増えたところであるが、目標値達成が難しい。 ホストタウンとして水球カナダとの事前キャンプの覚書を締結した。 ホストタウン事業としてラグビーカナダの視察やスポーツクライミングの事前キャンプの受入れを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> (公財)盛岡市体育協会や各競技団体、総合型地域スポーツクラブが各種教室や大会等を開催しやすくするため、連携を強化しながら情報提供を図っていく。 総合型地域スポーツクラブの活動状況について継続して周知を図っていくとともに、人材確保に努める。 カナダを相手国とするホストタウン事業に引き続き積極的に取り組む。
13-4 プロスポーツ等との連携	<ul style="list-style-type: none"> プロチームのチーム会員数がJ・Bリーグともに減少傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> プロスポーツチームが自立した運営を行うことができるよう支援を継続していく。

【施策評価(平成29年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	14	「盛岡ブランド」の展開
施策主管部等	市長公室	
評価責任者	古館和好 市長公室長	
評価シート作成者	岡市和敏 市長公室次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
<p>盛岡が住み続けたいまち、住んでみたいまち、訪ねてみたいまちとなるため、盛岡ならではの魅力や価値である「盛岡ブランド」を市民と共に磨き、育み、都市ブランドの確立を目指す。さらに、効果的に市内外に発信することにより「盛岡ブランド」を展開する。</p>	<p>・外国人観光客の入込数は増加し、魅力度における盛岡市の順位は向上しているが、市民の関心が低下している。今後、このような状況を分析し、事業の効果を測定しながら事業を構築する必要がある。 ・ブランド推進計画の成果と課題を整理するとともに、他都市のシティプロモーションの取組事例を参考としながら、次期計画の策定に向けて準備を進める必要がある。</p>

施策の概要

主な取組内容
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の総合学習で盛岡ブランドを取り上げ、子どもたちの郷土愛の醸成を図った。 ・盛岡ブランドフォーラムやもりおか暮らし物語表彰により、市民への普及啓発を行った。 ・首都圏の若者世代を中心とした「対象者」に、盛岡の価値や魅力を伝えるプロモーション素材を作成し、それを活用したプロモーション活動を行った。 ・地域おこし協力隊の活動により、東京でのPR活動や、SNSを活用した情報発信の仕掛け作り、ウェブへの記事の提供などを行った。 ・首都圏や宮城県への転出者にアンケートを実施し、転出後の盛岡とのかかわり方についてニーズ調査を行った。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民	盛岡への誇りや愛着を抱いてもらう。
市民以外の人	盛岡を知り、興味・関心を持ち、好きになってもらう。
-	-
-	-

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価	
指標①	まちづくり評価アンケート調査「盛岡が好き」と答えた市民の割合	単 位 %	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難) ・年齢別では男女とも10代から30代で「好き」と回答する割合が減少していることや、地区別では玉山地域の割合が他地域に比べ少ない傾向にあることが数値低下の要因となっている。 ・盛岡ブランドフォーラムの来場者の減少や、出前講座の要請が無いなど、活動が限定的で、市民の関心を上げるまでに至っておらず、指標の引き上げに繋がっていない。	
当初値(H25)	78.0	H31目標値	80.0		
指標③	観光客入込数	単 位 万人回	目指す方向 ↗	◎ 非常に順調に進捗している(H31目標値を達成している) ・全国的インバウンド旅行人気を受け、外国人観光客数が年々増加しているほか、メディアの発信による認知度の向上、東京盛岡ふるさと会との連携や盛岡デーでの発信など訴求するターゲットを設定したプロモーションが、入込数の増加に繋がったと考えられる。 ・首都圏や宮城県への転出者にアンケートを実施し、転出後の盛岡とのかかわり方についてニーズ調査を行ったことから、移住・定住・交流人口対策事業との連携により、効果的に盛岡をPRするための基礎資料となった。 ・一方で、盛岡と関わりがある人と連携するための情報発信の手法を確立できていないほか、広告宣伝や周知イベント等の回数や参加人数が限られており、大規模なプロモーションに繋がっていない。	
当初値(H25)	472	H31目標値	500		
指標②	地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」	単 位 位	目指す方向 ↗	○ 順調に進捗している(H31目標値を達成する見込み) ・地域ブランド調査において、調査項目となっている魅力度と相関関係の強い、情報接触度の指標である「「旅系」や「ロコミ系」の情報の接触」や、観光意欲度の指標である「観光などで盛岡を訪れる機会」の数値が向上しており、順位向上に寄与したものと考えられる。 ・一方で、市外在住者への広告宣伝の媒体や手法が限られており、効果的に訴求する広告宣伝が実施できていないほか、盛岡からの転出者や盛岡デーへの来訪者など、市外在住者のうち東京盛岡ふるさと会以外で盛岡と関わりがある人との連携が進んでいない。	
当初値(H26)	58	H31目標値	50		
指標④		単 位	目指す方向		
当初値(H25)		H31目標値		H36目標値	

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に推移している(H31目標値を達成している), ○ 順調に推移している(H31目標値を達成する見込み), △ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
14-1 市民・事業者との意識共有	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との連携により、通年での授業参画を行ったことで、より深い学びを提供できた。 ・盛岡ブランドのブランドイメージに関する市民・事業者の意識共有が不足し、市民・事業者による自発的なブランド発信が行われていない。 	第2次盛岡ブランド推進計画の期間が31年度までとなっていることから、市民のシビックプライド醸成とシティプロモーションの考え方を整理し、新たな方針・戦略を検討する。
14-2 情報発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・訴求する相手方(ターゲット)を設定することで、より効果的な情報発信を行うことが出来た。 ・盛岡からの転出者や盛岡デーへの来訪者など、市外在住者のうち東京盛岡ふるさと会以外で盛岡と関わりがある人との連携が進んでいない。 	新たな情報発信の手法の試行や検証を通じて、市外において盛岡と関わりがある人と連携するための効果的な情報発信の手法を確立する。 東京圏の盛岡出身など縁のある方を対象にしほり、関係人口の創出の機会を増やす。

【施策評価(平成29年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	15	良好な景観の形成
施策主管部等	都市整備部	
評価責任者	船水義一 都市整備部長	
評価シート作成者	千田敏 都市整備部次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
市民と共に、自然環境と歴史的環境とが調和した盛岡らしい魅力ある景観を保持するなど、良好な景観の形成を図る。	都市景観シンポジウム、都市景観賞等を開催し都市景観に関する意識の向上を図っているが、成果指標であるまちづくり評価アンケートの向上が見られない。30年度においては、社会情勢の変化等に合わせた景観計画の見直しを行っているが、都市景観シンポジウム、都市景観賞の内容の充実化等についても検討が必要である。 また、保存建造物等については、老朽化に対応するために計画的な改修を進める必要があるほか、屋外広告物については、制度が広く認識されていないことから市民等へ周知の方法を検討する必要がある。 なお、まちづくり評価アンケートの評価の低下の要因について把握に努める必要がある。

施策の概要

主な取組内容
都市景観シンポジウム、都市景観賞などを通し市民への景観に対する意識の向上を図り、景観計画区域行為届の審査・指導により良好な景観形成となるよう誘導し、併せて景観計画の周知を行った。 保存建造物、景観重要樹木等の維持保全を図り、市所有の保存建造物等を公開した。 屋外広告物の許可により、景観計画との整合と公衆への危害防止を図りながら、官民が連携したタウンミーティングを開催することにより、屋外広告物制度の周知を図った。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
街並み、山並み	優れた景観が守られる地域にあった景観になる
市民・建築関係者	景観に対する意識が高まる地域の景観に沿った建物等を建設する
—	—
—	—

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価	
指標①	まちづくり評価アンケート調査「誇れる市街地の景観があると思う」と答えた市民の割合	単 位	目指す方向	△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)	
		%	↗		
当初値(H25)	70.1	H31目標値	74.7	H36目標値	79.3
				市所有の保存建造物等の公開により景観意識の向上を図っているが、老朽化が進み、計画的な改善が必要となってきている。また、建設費用の高騰などを背景に特徴的なデザインを取り入れるのではなく、画一的な建物の建設などが増える傾向が見られることも、誇れる市街地の景観があるとの評価につながらない一因と考えられる。	
指標②	まちづくり評価アンケート調査「誇れる田園や丘陵地の景観があると思う」と答えた市民の割合	単 位	目指す方向	△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)	田園・丘陵地は新たな建造物等が建設されることが抑制される地域であるが、建設可能な新たな建造物等が建設される際においても景観に配慮するよう誘導しながら、今ある景観の維持、保全を図ることが必要である。
		%	↗		
当初値(H25)	59.6	H31目標値	69.4	H36目標値	79.3
指標③	まちづくり評価アンケート調査「誇れる山間地の景観があると思う」と答えた市民の割合	単 位	目指す方向	△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)	山間地は新たな建造物等が建設されることが抑制される地域であるが、建設可能な新たな建造物等が建設される際においても景観に配慮するよう誘導しながら、今ある景観の維持、保全を図ることが必要である。
		%	↗		
当初値(H25)	69.9	H31目標値	74.6	H36目標値	79.3
指標④	まちづくり評価アンケート調査「屋外広告物(屋外に表示されているはり紙や看板など)は、景観に配慮して表示・設置されていると思う」と答えた市民の割合	単 位	目指す方向	△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)	官民が連携したタウンミーティングの開催により屋外広告物の制度の周知を行ったが、まだ制度が広く浸透しているとはいえない状況であり、さらに屋外広告物の制度の周知を徹底し、適正な屋外広告物の設置を進める必要がある。
		%	↗		
当初値(H25)	28.1	H31目標値	31.1	H36目標値	33.6
指標⑤	まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の景観について、改善したい景観がある」と答えた市民の割合	単 位	目指す方向	△ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)	改善したい景観が市街地、田園丘陵地、山間地のいずれであるかを把握する必要があるが、市街地においては景観に対する配慮が不足している建設等や、保存建造物等の老朽化による汚れ等により、次世代に継承すべき魅力ある盛岡固有の景観が失われつつあることも一因と考えられる。
		%	↘		
当初値(H25)	20.6	H31目標値	17.4	H36目標値	14.8
指標⑥		単 位	目指す方向		
当初値(H25)		H31目標値		H36目標値	

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に推移している(H31目標値を達成している), ○ 順調に推移している(H31目標値を達成する見込み), △ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策		成果点・問題点	今後の方向性
15-1	景観保存対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・市所有の保存建造物を公開することにより、保存建造物の認識を高めた。 ・景観重要樹木の樹勢診断により、樹木の状態を把握することで適切な維持保全につながっている。 ・歴史的街並み整備事業の申請がなく、歴史的街並みの修景を進めることができなかった。 ・保存建造物の改修が進まず老朽化が進むことが、まちづくり評価アンケート調査において誇れる景観があると回答した割合が年々減少している要因のひとつと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観重要樹木について、より一層の樹勢診断等の活用を図り、枯渇のないよう維持保全に努める。 ・歴史的街並み整備事業の周知を図り、鉦屋町の歴史的街並みの修景を進める。 ・市所有の保存建造物の維持保全のため、計画的な改修を図る。
15-2	良好な景観形成の誘導	<ul style="list-style-type: none"> ・都市景観シンポジウム、都市景観賞等により市民の都市景観に関する意識の向上を図った。 ・屋外広告物制度の周知のため、官民が連携したタウンミーティングの開催等を行なっているが、広く浸透しているとはいえない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・盛岡らしい都市景観となるよう景観計画を見直し、都市景観シンポジウム、都市景観賞の内容の充実を図る。 ・屋外広告物の制度の周知の方法を検討し、屋外広告物の適正化を継続的に取り組む。

【施策評価(平成29年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施策	16	計画的な土地利用の推進
施策主管部等	都市整備部	
評価責任者	船水義一 都市整備部長	
評価シート作成者	千田敏 都市整備部次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
<p>地域の特性をいかし、機能的で魅力的な都市を形成するため、自然環境の保全と人々の営みとの調和を考慮しながら、コンパクトで効率的な市街地を形成するなど、計画的で適正な土地利用を推進する。</p>	<p>目標に即した整備、開発、保全の方針が適切に図られているが、今後とも各種法令に基づく事務事業を円滑に進めていくとともに、適正な土地利用が図られるよう基準等の見直しが必要である。 また、人口減少、少子高齢化等が進行する中、高齢者や子育て世代が安心して快適な生活を送ることができる環境を実現するとともに、将来のまちのあり方について検討を進め、コンパクトで持続可能なまちづくりに資する立地適正化計画の策定を進める必要がある。</p>

施策の概要

主な取組内容
<p>都市計画法に基づく区域区分等の見直しに向けた都市計画基礎調査や開発許可制度、国土利用計画法に基づく土地取引事後届出制度、国土調査法に基づく地籍調査などにより、国土利用計画盛岡市計画や都市計画マスタープランに基づく適正な土地利用が図られた。</p>

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
都市計画区域, 農用地区域, 森林区域	計画的に土地利用される
-	-
-	-
-	-

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価	
指標①	都市として計画的に整備し、開発し、保全する必要がある区域を指定する割合(市域における都市計画区域の割合)	単 位 %	目指す方向 →	◎ 非常に順調に進捗している(H31目標値を達成している)	
当初値(H25)	50.3	H31目標値	50.3	H36目標値	50.3
<p>・関連する上位計画や制度等の適切な運用及び関係施策や計画における相互連携による調整を行ったことから、目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。 ・開発及び建築行為における申請前の窓口相談等において十分な指導を行っていることから、市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。</p>					
指標②	農用地として保全し土地利用する割合(市域における農用地区域の割合)	単 位 %	目指す方向 →	◎ 非常に順調に進捗している(H31目標値を達成している)	
当初値(H25)	8.4	H31目標値	8.4	H36目標値	8.4
<p>・関連する上位計画や制度等の適切な運用及び関係施策や計画における相互連携による調整を行ったことから、目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。 ・開発及び建築行為における申請前の窓口相談等において十分な指導を行っていることから、市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。</p>					
指標③	森林として保全し土地利用する割合(市域における森林区域の割合)	単 位 %	目指す方向 →	◎ 非常に順調に進捗している(H31目標値を達成している)	
当初値(H25)	73.2	H31目標値	73.2	H36目標値	73.2
<p>・関連する上位計画や制度等の適切な運用及び関係施策や計画における相互連携による調整を行ったことから、目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。 ・開発及び建築行為における申請前の窓口相談等において十分な指導を行っていることから、市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。</p>					
指標④		単 位	目指す方向		
当初値(H25)				H31目標値	H36目標値

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に推移している(H31目標値を達成している), ○ 順調に推移している(H31目標値を達成する見込み), △ 遅れが生じている(H31目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
16-1 土地利用に関する計画の策定・見直し	<ul style="list-style-type: none"> 目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。 将来における都市部及び農村部の生活サービス、コミュニティ、社会資本の衰退が懸念される。 将来における森林資源の保全維持管理を継続していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少、少子高齢化等の社会構造の変化に対応したコンパクトで持続可能なまちづくりに資するため立地適正化計画の策定を進める。 農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として、保全・活用するよう市街地の集約化と相乗効果が得られるような総合的で計画的な土地利用を進める。
16-2 土地利用の管理・指導	<ul style="list-style-type: none"> 市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。 開発許可及び建築許可の件数が多く、相談内容が多岐に及び時間を要するため相談者の待ち時間が増えている。 審査基準の緩和に関する相談や調査、資料収集が必要で、複雑な相談内容への対応に時間を要している。 	<ul style="list-style-type: none"> より効率的な窓口対応を図るため、説明資料等の工夫等を検討する。 市街化調整区域における開発許可基準については、地域の実情等に応じ、継続してその見直しについて検討していく。